

国際社会学部

金 悠進

Kim Yujin

地域社会研究コース／インドネシア

地域研究、カルチュラル・スタディーズ



インドネシア地域研究とは

専門はインドネシア地域研究です。とくにインドネシアの音楽を主な研究対象としています。インドネシアは多宗教・多民族・多言語の島嶼国です。「多様性のなかの統一」という国是にあらわれるように、さまざまな違いを超えて、「インドネシア」としてまとまっています。そうした多様性は、政治や社会だけでなく、文化の側面にもあらわれています。地域研究は、そのような多面性に対して、一面的な見方のみで把握しようとするのではなく、複眼的な視座から捉えることが重要です。例えばインドネシアの音楽は、ガムランのような伝統音楽からクロンチョンやダンドゥットなど大衆音楽、ロックやポップスなどの現代的な若者音楽まで多種多様です。これらのジャンルは、単に「音」だけでなく、歴史的成り立ちや地域的・社会的文脈などが大きく異なります。一見無関係に思えますが、じつは音楽をはじめとする文化は、社会や政治と分かちがたく結びついています。このように〈文化と政治〉の関係性に迫る学問がカルチュラル・スタディーズです。インドネシアの多様性を理解するためには、文化と政治どちらか一方ではなく、両方の視点から考えることが重要です。

研究紹介

インドネシア大衆文化研究を中心に、同国のロックやポップスといったポピュラー音楽が歴史的にどのように発展してきたのかを、政治的な背景から考えてきました。主な関心は、スカルノ初代大統領からスハルト第2代大統領に移行する1960年代半ばにおける音楽文化の変容、そして1998年スハルト体制崩壊から現在の民主主義時代に至る音楽文化の変容です。スカルノからスハルトへの歴史的政変は、映画などさまざまな文化ジャンルのなかでもとくに音楽のあり方に大きな影響を与えました。さらに30年以上に及ぶスハルト権威主義体制の崩壊と民主化・自由化は、ミュージシャンの表現スタイルやメッセージ、活動に決定的に重要な影響を及ぼしました。こうした〈政治⇄文化〉の相互影響関係を、国内外のさまざまな出来事や言説、諸実践から肉薄していくのが、私の研究スタイルです。

担当授業

- インドネシア研究入門
- インドネシアの文化と社会
- 東南アジアの文化と社会
- インドネシア文化論
- 東南アジア地域研究・インドネシア研究演習

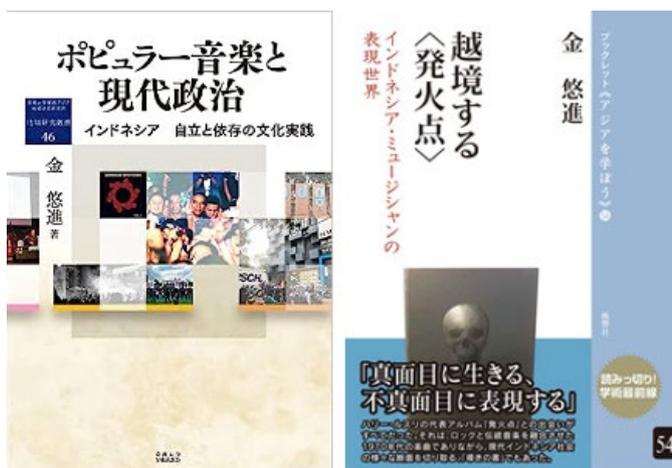
関連する分野

- 政治学
- 社会学
- ポピュラー音楽
- メディア

出版物

インドネシア地域研究（音楽と政治）

- 『ポピュラー音楽と現代政治：インドネシア 自立と依存の文化実践』
- 『越境する〈発火点〉：インドネシア・ミュージシャンの表現世界』



国際社会学部

インドネシア地域研究 ゼミ

どのようなゼミか

本ゼミは、東南アジアの文化、政治、社会、現代史を対象としています。主に、インドネシアの現代政治やポピュラーカルチャーが対象ですが、それ以外にも、テーマとしては、ナショナリズムや宗教、民族、社会運動、階層、思想、ジェンダーなども対象となります。時代的には、オランダ植民地時代、主に19世紀以降の独立運動の時代から、独立後のスカルノ時代、スハルト時代、民主化を経て、現在に至るまでが対象時期となります。地域はインドネシアに限定しませんが、主に（大陸部・島嶼部問わず）東南アジアが対象範囲となります。

地域研究は、一見すると無駄とも思えるような雑学もダイヤの原石です。地域を総体的に理解するためには、すぐに役に立ちそうなデータだけではなく、些細なことでもその地域の特質を見る上で重要です。

本ゼミでは、東南アジア・インドネシアの現代史を学びつつも、そうしたマクロな歴史や政治が、ミクロな社会問題や文化現象といかに結びついているのかを考えていきます。そのために重要なのは現状分析です。日々、インドネシアや東南アジアで何が起きているのか、まずは知ることです。そしてそこから、なぜこのような問題が生じたのか、なぜこんな不可解な現象があらわれたのか、そうした身近な「問い」を立てていきます。その背景を歴史から読み解きます。新興国であるインドネシアや東南アジア諸国の変化は著しいです。政治、経済、社会、文化が急速に変化します。そうした変化をまず短期的にフォローしていくのは重要です。しかし、そこで近視眼的にならず、必ず中長期的な文脈を考慮することも必要です。すなわち「木を見て森を見ず」にならぬよう、アリの目と鳥の目、両方の目から対象を観察し、分析します。こうしたトレーニングをゼミでは推奨しています。

インドネシア・東南アジアは多様性の国・地域です。したがって、「問い」に対する「答え」は必ずしもひとつとは限りません。宗教的な要因や民族的な背景、社会経済的な構造要因までさまざまです。そうした各要因を丁寧に探りつつも、歴史的な背景を必ず踏まえて、時には他のアジア諸国を比較・参照しつつ、インドネシアなど東南アジア各国の固有性と共通性を浮き彫りにしていきます。本ゼミを通して、地域の「いま」を、複眼的な視点から眺めていく姿勢を身につけてほしいと思います。



インドネシアのレコード・ショップ
(中部ジャワ州ジョグジャカルタ)

卒論

- 映画からみるインドネシア現代政治史
- インドネシアの地方社会―「食」からみる民族文化
- インドネシアの産業と政策課題―「アブラヤシ問題」とは何か
- 日系企業のインドネシア進出

おススメの本

- 本名純『民主化のパラドックス』
- 増原綾子『スハルト体制のインドネシア』
- 白石隆『インドネシア 国家と政治』
- 佐藤百合『経済大国インドネシア』
- 倉沢愛子『インドネシア大虐殺』
- 永淵康之『バリ島』
- 野中葉『インドネシアのムスリムファッション』
- ベネディクト・アンダーソン『ヤシガラ碗の外へ』
- 田子内進『インドネシアのポピュラー音楽』